

回想法の夕劇・12月号

平成28年11月25日発行
発行 龍ヶ崎市回想法センター
龍ヶ崎市平台5-9-7
電話・FAX 0297-65-4443
e-mail pia-kaiso@etude.ocn.ne.jp
h p www.piakaiso.sakura.ne.jp

今年も後わずかになりました

こんな社会がいいかな

昔は、親が具合が悪くなると、夕方何処からとおなく「煮ものを作った。みんなで食えよ」と夕飯のおかずが届いたり、「ほれ飯でも食ってけ」と夕飯をごちそうになったり、ご近所から手助けの手が伸びてきました。路地には子どもの声ははじけ、「子供は泣くのが仕事。泣くのは元気の証拠」と、背中で泣く子を皆であやしてくれたり、井戸端では、おばちゃん達が威勢よくおしゃべりし路地には笑い声があふれていました。今は、物があふれ豊かな世中になりましたが、高齢者は昔のほうがよかったと言っています。

今は、子どもの声がうるさいと幼稚園が困っていたり、泣く子を抱えた母親が「すみません」と謝ったりしている。子育ても高齢者介護も同じように「私が頑張らなきゃ」ではなく、「子育てが、高齢者介護がこんなにも大変な社会はおかしい」と言える社会にならないと、子育ても、高齢者介護も変わらないような気がしています。子供もお年寄りも、地域で見守ってゆけるような、安心して子育てができる、安心して年を取れる社会になったらいいな～と思っています。

親の老いを受けいれる

母も、これ以上痩せるところがないほど痩せてしまいました。「人が来た。早く玄関を開け家に入れてあげなさい」「電話が鳴っている早く出なさい」等幻聴、幻視が表れ夜中に起こされます。本人は、私を起こしているとは思っていないのですが、毎日繰り返されると困ってしまいます。困った時は、私は母のベットに潜りこみ「いまは夜中。こんな時間に人は来ないわよ」と、母と一緒に寝ます。母は「寒くない、温めてあげるから私の背中にくっ付きなさい」と言いながらいつの間にか静かに眠りにつきます。

明け方「寒い、体が冷たくなってきた。私死ぬのかしら」と、びくっとすることを口走るときもあります。そんな時は母の隣で「大丈夫よ私がついているから。心配しないで」と背中をトントンたたいて居ると安心したように眠ります。親は、幾つになっても、認知症になっても親なのです。たえづ私を気遣い私の役に立ちたいと思っています。母に残された時間は少ないと思いますが、老いてゆくことはどんな事となのか、親が子に教える最後の仕事であり、親からの最後プレゼントのような気がしています。

12月の予定

お認知症家族会あおぞら	12月 7日 (水)	市民活動センター多目的室 13時30分15時
うたごえ広場	12月 8日 (木)	ショッピングセンターリブラ 1階 2時から4時
しゃべりサロン	12月 12日 (月)	市役所地下食堂 2時から4時
川柳カフェ	12月 17日 (土)	ショッピングセンターリブラ 1階 10時30分~12時
笑顔屋	12月 21日 (水)	ショッピングセンターリブラ 1階 10時30分~12時

問い合わせ先 龍ヶ崎市回想法センター 080-4209-5708 担当 赤嶺